



P44

Magnum

ユーザーマニュアル

バージョン 1.1

序文

私たちの仕事は、基本的な P42 の回路を、より多くの人々が利用しやすい価格帯で利用できるようにすることを目的として始めました。その目的は既存のコードを再利用し、新しいグラフィカルインターフェースを追加し、新しいものとして提示することではありませんでした。当初は P42 Climax から派生して P42 Jr. と呼ばれていましたが、すぐに独自のアイデンティティ、スタイル、ワークフローを確立しました。運命には独自の計画があったのです！ P42 Jr. は前のモデルに依存するのではなく、独自の道を切り開くことを決意し、別のアイデンティティを主張し、その結果、P44 Magnum とという新しい名前を授けられました。こうして新たなスターが生まれました。

ノイジーなローエンド (Oomph と Poomph と呼ばれる 2 つの新設計回路を搭載) を放つことを好む Magnum は、そのカオスを内部から伝達する新たなアプローチを求めました。課題は Pulsar Modular がこれまで伝統的なハードクリッパーやソフトクリッパーの領域に踏み込んだことがなく、一般的にスムーズな結果を求めていなかったことでした。こうして、不快な音や人工的な音を絶対に出さないクリッパーを設計する探求が始まったのです。新しいバリカン (クリッパー) の設計が完成し、シームレスに統合されると、Magnum は真の声を見つけ、その特性を明らかにし、その可能性を示し、そして最も重要なことは、ベビーなアルファがどれほど危険な存在であるかを示すことでした。

P44 Magnum を使いこなすにあたって私がアドバイスしたいのは、行き当たりばったりでこの体験に臨まないことです。その代わり、精力的にその先へ挑んでみる姿勢が大事です。

エディ・フロイドが **“It’s like thunder, lightning; the way you love me is frightening; I better knock, knock on wood, baby.”** と言ったように。

(雷のようで、稲妻のようで、あなたの愛し方は怖いくらいだ。ノック、ノック・オン・ウッド、ベイビー)

Ziad Sidawi

Audio Equipment Designer & CEO

Pulsar Novation LTD





MOD - サーマット・チェンジャー
これは、代替のシグネチャー回路設計を作動させます

プリセット・セクター

A/B 比較

オプションメニュー
バージョン情報/ライセンスステータス/ユーザーガイド/オプションと環境設定

OOMPH
ランブル・タンパー

バイパス

極性反転

FINE: SWEET 回路のベルフィルター部分の振幅を調整

A-11/12J トランス
新しい回路設計で現実的な飽和と密度を実現。

SWEET: 高周波ブースト回路

O2: 生気のない音を目覚めさせるために設計された、独自のシグネチャー回路

MIX
O2の前にWET信号とDRY信号の調整

POOMPH
テンパー・パンチャー

INPUT: INPUT DRIVE と OOMPH の間にサチュレーションを配置
OUTPUT: POOMPH と SWEET の間のサチュレーション

PRE= メイン出力前の SMO
POST 後の SMO= MAIN OUTPUT
SMO は SWEET>>MIX>>O2

INPUT DRIVE: トランスにヒットした時の高調波を増減

MAIN OUT
クリーン出力の増減

Save - 現在開いているウィンドウのサイズと位置を保存

Dual Mono

OS: オーバーサンプリング (OFF, VINTG, INTEL, HD)

CLIP: クリッパーを起動し、関連するコントロールを表示

SATURATION
高密度化・グルー効果、サチュレート

Delta: WET 信号と DRY 信号の差を試聴





OOMPH は、低音域にエネルギッシュな響きとして感じられる、轟くようなパワーをもたらします。低音域は 10 Hz から 45 Hz のサブバス領域まで広がる。

現代の SNS などのコミュニケーションチャンネルで長年広まってきた伝統的な神話では、ミックスの低音域をすべてカットするように勧められており、それを誤って広めてしまったという実態があります。私たちはそれを受け入れ、OOMPH を与え加えることを提案します。

OOMPH は、選択した中心点に理想的な Q、カーブ、振幅の組み合わせをもたらすように、設計者の耳で調整されています。Q、カーブ、振幅の理想的な組み合わせで、選択したセンター・ポイントを強化します。

左にあるスミージングスライダーは、ブーストされた周波数の下限をシェイプし、低域が全周波数帯域にわたってスムーズに収まるようにします。

緑色の LED ライトで回路を有効または無効にします。



POOMPH は OOMPH の後を引き継ぐようなものです。OOMPH にとってのパンチは、POOMPH にとっての打撃音のようなものです。POOMPH は、45 Hz の低音域から 82 Hz の低音域の下限まで感じられ、聴こえます。

緑色の LED ライトで回路を有効または無効にします。スミージングスライダーは、OOMPH で説明したとおりの動作をします。



SWEET はカスタムデザインされた高周波エキサイターで、ハチミツのように甘く、そして鋭く、それでいて刺激の少ないように設計されています。SWEET をナビゲートするとき、立ち止まって耳を澄ますと、高域があらゆる方向に広がっていることに気づくでしょう。これは、ユニークなカーブを持つフィルターとの組み合わせ以上のものです。

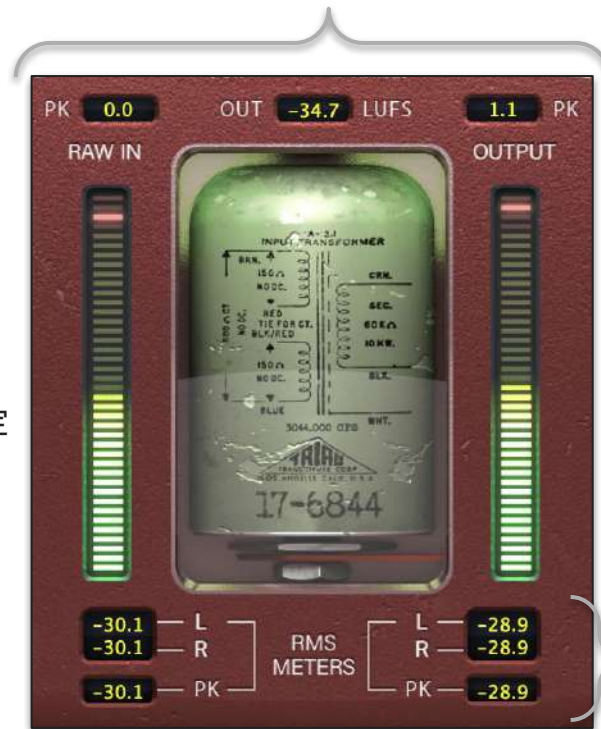
SWEET の右側にある FINE スライダーは、カーブ独自の結合形状に影響を与えることなく、回路のベルフィルター部分の振幅を微調整することができます。

ヒント: OOMPH 曲線と POOMPH 曲線は、それらの交差点に応じて興味深い方法で相互作用します。時には異なるポイントで補完的なパンプが発生し、時には累積的な反応があります。実験して、確信してください！

上部 PK(ピークホールド)測定は、測定された RAW IN および OUTPUT の最高ピーク値を保持
LUFS OUT 測定は短期的な LUFS を示します

レベルインジケータは
RMS / PEAK RMS 測定値を表示します

DAW を停止/起動すると、すべての測定
値がリセットされます



LUFS(フルスケールによるラウドネス単位)
測定、dBFS PK(ピークホールドによるフルス
ケールによるデシベル)測定、RMS/PEAK
RMS(二乗平均平方根)Bar 測定やメトリクス
など、さまざまな情報を表示します。

LR(左右)は RMS アベレージを表示し、
PK RMS(RMS ピークホールド)は RAW IN
および OUTPUT 測定値を表示します



MAIN OUTスイッチは、歪みのないゲイン調整用
シフトキーを押しながら MAIN OUT を調整すると、
INPUT DRIVE が自動的に補正されます



Delta は、WET 信号と DRY 信号の違いを聴き分ける
ことができます
プラグインが生信号から何を足したり引いたり
するかを聞くことができます



MIX WET/DRY ノブは、未処理の DRY 信号と処理済みの WET 信号をミックスします。MIX は常に SWEET と O2 の間に位置しています。ミックスされた WET/DRY 信号は、プラグイン全体の設計の整合性と意図を維持するために、O2 回路に単一のエンティティとして供給されなければなりません。



オーディオは SMO と呼ばれる 3 つの回路を通過します: SWEET >> MIX >> O2

PRE に設定すると、SMO が MAIN OUT より前になります。POST では、SMO は MAIN OUTPUT の後ろになります。



O2 はユニークな回路アルゴリズムで、オーディオ信号を原音の限界を超えて拡大または膨張させる効果があります。その感覚は、音に長く、深く、音に息吹を吹きかけるような感覚を連想させます。



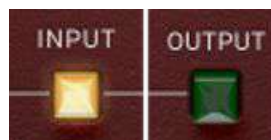
P44 Magnum SATURATION は、鋭いデジタルピークを和らげ、ソースの RMS (密度/エネルギー) を増加させ、接着、圧縮のような効果が得られます。



INPUT DRIVE ノブは、トランスへの入力ゲインを追加し、倍音をブーストします。サチュレーションスライダーと組み合わせて使用し、素材を引き立てる理想的なハーモニクスバランスを設定します。

INPUT DRIVE を引っ込めると高調波が減少しますが、イメージの奥行きが増すような感覚が得られます。

注: INPUT DRIVE を調整する際に Shift キーを押し続けると、MAIN OUT が自動的に補正されます。



サチュレーション・ポジション・オプションが INPUT に設定されている場合、サチュレーション回路は Oomph & Poomph 回路に入る前に適用され、より強烈で攻撃的な低音が得られます。

OUTPUT に設定すると、サチュレーション回路が Oomph & Poomph 回路の後に配置され、より豊かで滑らかなローエンドが得られます。

ヒント: マグナムサチュレーションは、中域から上域にかけて信号を太く、強くする傾向があります。シンプルで効果的なワークフローは、まずトランジェント・ピークとミッドプレゼンスにフォーカスしながら SATURATION を調整し、次に OOMPH、POOMPH、SWEET、O2 を使用して信号のバランスを調整することで完了します。

ヒント: 最大 -24 dB までの広い範囲の減衰は、ドライブを押して高調波の可聴性を高める際に、信号のゲインステージを助けます。





バイパスは影響を受けていない生のオーディオ信号を未処理のまま通過させます。



オーディオ信号の極性を反転させます。



オーバーサンプリングはサチュレーションルーチンにのみ適用され、ホストの2倍のサンプリングレートで動作します。



P44 は、トラック上で有効にするだけで、オーディオと融合するような音響特性を示し、ハードウェアデバイスのように振る舞います。MOD ボタンは、テープのような音響特性を与える代替回路設計を有効にします。



A/B は、A と B を素早く比較するための一時的な保存(プリセットには保存されない)を可能にします(2つの切り替え時にマウスを動かす必要はありません)。矢印ボタンは、アクティブな側を非アクティブな側にコピーすることができます。プリセットを一時保存にロードすることもできます。



CLIP ボタンをクリックすると、Clipper と関連するすべてのコントロールがアクティブになります。



About
License Status
User Guide
Set Default Size

About - バージョン番号とデモの有効期限を確認
License Status - ライセンスの管理
User Guide - ユーザーガイドを開く
Set Default Size - これはグローバルな設定です。

現在の GUI ウィンドウサイズを新しいインスタンスのデフォルトとして設定します。



プリセットブラウザを使用して、プリセットをブラウズ、ロード、保存します。左の保存アイコンをクリックして既存のプリセットを上書き保存するか、右の保存アイコンで新規プリセットを作成します。プリセットが保存されたことを示す赤いアスタリスク*が左の保存アイコンの横に表示されません。

ソフトウェアをアップデートする際、インストールプリセットオプションが無効になっていない限り、変更された工場出荷時のプリセットは上書きされます。ユーザーが作成したプリセット名および提供されたプリセット名以外の名前前のプリセットは、変更または削除されません。



Dual MONO 機能は、左右のチャンネルでアナログエミュレートされたチャンネル公差の変更を可能にします。ステレオの代わりにこのオプションを有効にすると、ワイドでダイナミックなイメージを楽しむことができます。



P44におけるクリッピングプロセスは、音色、イメージング、堅牢性などのソース素材の整合性を保ちながら、卓越した品質を誇ります。

ハードクリッピングは、KNEE 設定が 0 のときに発生します。一方、ソフトクリッピングは KNEE を増加させることで達成され、しきい値に向かって曲線を作ります。たとえば、KNEE 値が 4 dB に設定されている場合、ソフトクリッピングはしきい値に達する 4 dB 前に作動します。クリッパーは曲線に従って徐々に作動します。しきい値を超える信号は引き続きクリッピングされます。

KNEE コントロールを調整することで、クリッピング効果を変更できます。この調整により、音はタイトでパンチのある強いものから、徐々に滑らかになり、より重みがあり、やや控えめなものに移行しますが、指定されたしきい値でのクリッピングは維持されます。

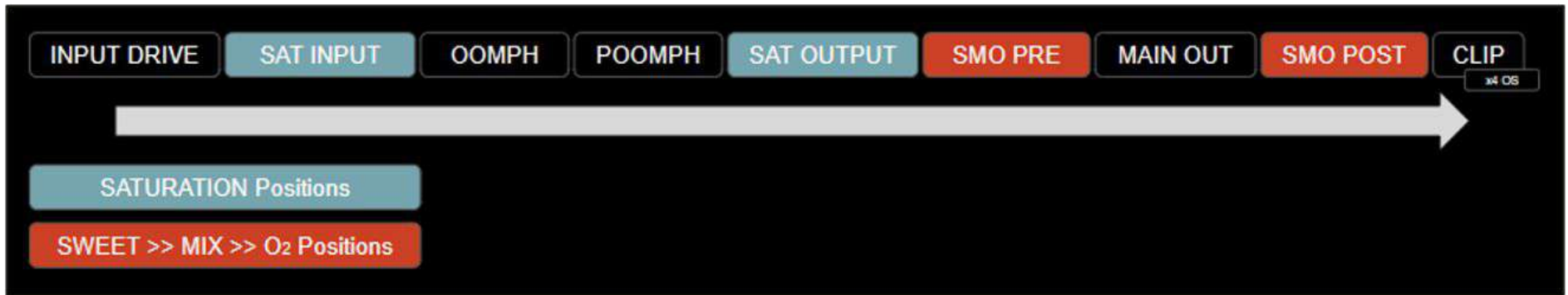
CLIP ボタンの右側には、クリッピングしきい値を最大 -18 dBFS に設定できる dBFS スライダーがあります。dBFS スライダーの右側には、クリッピングされている信号の量を示す GR ディスプレイがあります。次に、KNEE スライダー（上記の通り）があります。最後に、OUT スライダーは、-18 dB から 9 dB の範囲でポストクリップレベルの調整を可能にします。

また、ポストクリップレベルの調整は -18 dB から 9 dB の範囲で行えます。CLIP は P44 信号チェーンの最終段階にあり、MIX ノブの後に現れます。OS ボタンの状態に関係なく、常に 4 倍のオーバーサンプリングが実行されています。

ヒント: CLIP を使うとトップエンドが少し落ちてしまう場合は、SWEET、O2、またはその両方を組み合わせて使うと元に戻ります。

ヒント: CLIP は MIX の後のシグナル・チェーンの最後に表示されるため、完全に WET な信号、パラレル・WET/DRY を組み合わせた信号、あるいは完全に DRY な信号をクリップするために使用できます。MIX スイッチを 100% DRY に設定すると、P44 は実質的に「クリッパーのみ」モードになります。

シグナルフロー・ダイヤグラム



修飾キー

1つまたは複数のパラメータを一時的にバイパスする

(⌘ + ⇧)(macOS) または CTRL + ALT (Windows) + マウスオーバー

オートメーションのパラメータを有効にする (Pro Tools のみ)

macOS では control + command + option (^ + ⌘ + ⇧)

Windowsでは CTRL + ALT + START () を押します。

MIX ノブを調整し、IN または OUT スライダーを反対のコントロールと同じように補正します。

SHIFT + クリック + ドラッグ : カウンターゲイン補正

ノブ、スライダー、その他のコントロールの微調整

macOS では control (^) を押しながら、Windows では CTRL を押しながら、左クリックしてドラッグします。または、右クリックしたままドラッグします。

オートメーションパラメータを有効 (Pro Tools のみ)

macOS では Control + command + option (^ + ⌘ + ⇧)、Windowsでは CTRL + ALT + START ()

ノブ、スライダー、その他のコントロールの微調整

macOS の場合はコントロール(^)キー、Windows の場合は CTRL キーを押しながら、左クリックしてドラッグします。または、右クリックしたままドラッグします。

コントロールをデフォルト状態に戻す

macOS では option (⇧) を、Windows では ALT を押しながら左クリックする。または、キー修飾子なしでダブルクリックする。

General

マウスとキースイッチャー

ボタン、スライダー、その他のコントロールの微調整

macOS では control (^) を押しながら、Windows では CTRL を押しながら、左クリックしてドラッグします。または、右クリックしたままドラッグします。

コントロールをデフォルト状態に戻す

macOS では option (⌘) を、Windows では ALT を押しながら左クリックする。または、キー修飾子なしでダブルクリックする。

1つまたは複数のパラメータを一時的にバイパスする

ジャンプするには、macOS の場合は command + option (⌘ + ⌘)、Windows の場合は CTRL + ALT を押したまま、選択したパラメータ上にマウスポインタを移動します。修飾キーを離すと、スキップしたパラメータが再び有効になります。これは OOMPH、POOMPH、SWEET、O2、SATURATION、KNEE に適用されます。

オートメーションのパラメータを有効にする (Pro Tools のみ)

macOS では control + command + option (^ + ⌘ + ⌘)、Windows では CTRL + ALT + START () を押します。

Tips & Tricks

- **CLIPPER**: SATURATION、INPUT DRIVE、その他お好みのパラメーターで CLIP を有効にし、信号をプッシュしてみてください。OUT スライダーを下げて補正します。その結果、すべてのクリエイティブなニーズに適した、爆発的に美しく、過激化された信号が得られます。
- **SWEET**: 高周波の共鳴を除去する自動周波数スムージングスタイルのプラグインを使用している場合は、SATURATION と SWEET の組み合わせで P44 Magnum を後に続けて、除去した部分に心地よい高周波成分を注入して持ち上げてみてください。
- **INPUT DRIVE**: INPUT DRIVE を上げきり、MAIN OUT を下げきるだけで、どんなサウンドにも躍動感と透明感が生まれ、サウンドが強調されます。

プリセットの管理

基本情報

インストール中にプリセットを読み込むオプションが選択解除されていない場合、インストールはプリセットを上書きします。ユーザーが作成したプリセットは変更されません。工場出荷時のプリセットに加えた変更を保持し、アップデート中も保持するには、インストーラを実行する際にプリセットを読み込むオプションの選択を必ず解除してください。また、プリセットブラウザの右側にある「save as」オプションを使用して、異なる名前で独自のプリセットを保存することを忘れないでください。

バックアップ・プリセット

プリセットは、オペレーティングシステムのファイルマネージャを使用してバックアップおよび復元することができます。個々のプリセットファイルまたはプリセットフォルダ全体をコピーして、お好みのバックアップ場所に貼り付けるだけです。プリセットフォルダは以下の場所にあります。

Windows

「C:\Users\Public\Documents\Pulsar Modular\P44 Magnum\Presets」

MacOS

「/Users/Shared/Pulsar Modular/P44 Magnum/Presets」

コンピュータから P44 Magnum を削除する方法

Windows

- VST3:「C:\Program Files\Common Files\VST3」にある「P44 Magnum.vst3」を探して削除します。
- AAX:「C:\Program Files\Common Files\Avid\Audio\Plug-Ins」にある「P44 Magnum.aaxplugin」フォルダを見つけて削除します。
- Shared:「C:\UsersPublic\Documents\Pulsar Modular」内のフォルダ「P44 Magnum」を探し、削除します。
このフォルダにはユーザーマニュアルとプリセットが入っています。
「Pulsar Modular」の下に他のフォルダがなければ、それも削除できます。

MacOS

- AU:「/Library/Audio/Plug-Ins/Components」にあるファイル「P44 Magnum.component」を探し、削除します。
- VST3:「/Library/Audio/Plug-Ins/VST3」にあるファイル「P44 Magnum.vst3」をから探し、削除します。
- AAX:「/Library/Application Support/Avid/Audio/Plug-Ins」内の「P44 Magnum.aaxplugin」フォルダを見つけて削除します。
- Shared:「/Users/Shared/Pulsar Modular」内の「P44 Magnum」フォルダを探し、削除します。
このフォルダにはユーザーマニュアルとプリセットが入っています。
「Pulsar Modular」の下に他のフォルダがなければ、それも削除できます。

制限事項

利用者は、レンタル、リース、頒布、複製（営利を目的とするか否かを問わない）を目的として、リバースエンジニアリング、逆アSEMBル、再サンプル、インパルス応答プロファイルの作成、または再録音、逆コンパイル、全部または一部の変更、インパルス応答プロファイルの作成、または再録音、逆コンパイル、PULSAR NOVATION LTDオーディオプラグインの変更を行うことはできません。

開発者: Pulsar Modular Team
GUI デザイン: Max Ponomaryov / azzimov GUIデザイン - www.behance.net/azzimov
ユーザーガイド: Kevin Eagles
Naruki Konagaya

開発段階のテスター: Leo Alvarez Robb Robinson
Kevin Eagles Rozko Music (aka b0se)
Matthias Klein

ベータテスター: 素晴らしいユーザーの皆さん、ありがとうございました！

本取扱説明書に誤りや記載漏れがある場合は psupport@pulsarmodular.com までご報告ください。

著作権 2024年、Pulsar Novation Ltd.

P/N: 22723、Rev.1.1

Pulsar ModularはPulsar Novation Ltd.の登録商標です。

P44 MagnumはPulsar Novation Ltdが所有するアドオン名です。

AAxおよびPro Toolsはアビッドテクノロジー社の商標です。名称およびロゴは許可を得て使用しています。

Audio UnitsはApple, Inc.の商標です。

VST は Steinberg Media Technologies GmbH の商標です。

ここに記載されているその他の商標は、各所有者に帰属します。

Pulsar Novation Ltd.

Demircikara District, 1419 Street, Ocean City Block B, Floor 4

Muratpaşa, ANTALYA 07100 +90-530-111-4907

www.pulsarmodular.com